

こがだいき
【古賀大輝投手プロフィール】

平成6年桂川町土師二生まれ。桂川小・中学校出身。父の影響もあり、幼いころから野球に興味を示し、小学2年生のときに桂川町野球スポーツ少年団（桂スポ）に入り、野球を始める。桂スポでは、3年生から試合に出場し、数々の大会で優勝。中学では、竹友会ドラゴンズ（小竹町）に第一期生として入り、2・3年生のときに全日本少年軟式野球福岡大会出場を果たす。そして、飯塚高校に進学し、野球部に入部。1年生の秋からベンチ入りし、2年生の秋からは背番号1をつけ、エースとして活躍。



▲ 8月1日、古賀大輝投手が父・秀一さんと町長室を訪れ、甲子園での活躍と勝利を約束しました。

粘り強く戦ったナイン

2回戦に駒を進めた飯塚は、大会7日目の8月15日、第4試合で、仙台育英（宮城県）と対戦しました。

この日もアルプススタンドには、たくさんの応援団が詰めかけ、試合を見守りました。

飯塚の先発は西投手。一回表、仙台育英の攻撃を0点に抑える。飯塚はその裏、相手投手の立ち上がりを攻め、3点を奪います。しかし、2回表にソロホー



ムランで1点を返されると、3回表、タイムリーや犠牲フライなどで3点を奪われ、3-4と逆転を許します。4回表にも2点を追加され、3-6とリードを広げられます。その後は両チーム無得点が続き、迎えた8回表、飯塚のエース古賀投手がマウンドに上がります。古賀投手は8回、9回を無失点に抑え、9回裏の攻撃に入ります。アルプススタンドやテレビの前では飯塚の逆転を信じ、応援しましたが、仙台育英のエース渡辺投手の前に0点に抑えられ、善戦むなしく、3-6で敗れ、飯塚高校の、そして古賀投手の熱い夏が終わりました。

試合終了後、アルプススタンドからは、最後まで粘り強く戦った選手たちに、惜しめない拍手が送られていました。

飯塚高校野球部の皆さん、4年ぶりの夏の甲子園出場、そして悲願の甲子園初勝利、たくさんの感動をありがとうございました。

INTERVIEW

古賀大輝 投手



子どものころからの夢だった甲子園に父や祖母を連れていくことができ、とてもうれしく思っています。また、桂川町民の皆さまには温かいご支援・ご声援いただき、ありがとうございますので、応援よろしくお願ひします。

